アントワーヌ・ヴォロディーヌ講演会

「海外の文学をフランス語で書く」

ÉCRIRE EN FRANÇAIS UNE LITTÉRATURE ÉTRANGÈRE

4月27日（木）
16：50-18：20

場所
関西学院大学上ヶ原キャンパス
文学部１号教室

講演言語
フランス語（通訳あり）

入場無料・予約不要

主催：アンスティチュ・フランセ関西　共催：関西学院大学文学部フランス文学フランス語学専修、
科学研究費基盤 B「世界文学の時代におけるフィクションの役割に関する総合的研究」

アントワーヌ・ヴォロディーヌ

海外の文学をフランス語で書く

アントワーヌ・ヴォロディーヌがその豊かな創作活動を通じて描き出しているのは、人間が消滅しつつある終末論的な世界です。ジェノサイドや革命の記憶が刻み込まれた 20 世紀の歴史を想起させつつも、仏教的世界観やシャーマニズムといったアジア的要素も感じ取られる世界。魔術的リアリズムとディストピア小説が一体となったようなこの世界を、ヴォロディーヌは、複数の人物の声を媒介にして物語ります。

作家はみずからの文学活動を「ポスト・エグゾティスム」と位置づけています。直訳すれば「異国趣味以降」となるこの文学を、彼は次のように定義します。「ポスト・エグゾティスムは、他所からやって来て他所へと行こうとする文学であり、そのほとんどが不毛な前衛主義に拒否を示す複数の傾向や潮流を受け入れる外国文学である。」（『10 のレッスンで学ぶポスト・エグゾティスム、第 11 課』）架空のジャンルや、文章が途中で切れる奇妙な文などを駆使したヴォロディーヌの文体上の実験が、その特異な虚構世界を表現するためのものであることはもちろんです。しかしそれはまた、外国文学の翻訳者としての彼の活動とも関わっているように思われます。今回の対談では、現代フランス文学に新境地を開いたこの作家を迎え、自身の創作について、また小説の可能性や翻訳の営みなどについて語ってもらいます。

ANTOINE VOLODINE

アントワーヌ・ヴォロディーヌは小説家にして翻訳者。エリー・クルナウアー、マニュエル・ドラゲール、リュツ・バスマンの名義で書かれた作品も含め、40 以上の作品をこれまで世に出している。ヴォロディーヌ名義の最新作『光あふれる終着点』（2014 年）ではメディシス賞を受賞。現代フランス文学界の最重要人物の一人。

日時：2017年4月27日（木）
16：50～18：20

場所：関西学院大学上ヶ原キャンパス文学部１号教室
講演言語：フランス語（通訳あり）
入場無料・予約不要
問い合わせ：関西学院大学 文学部
TEL 0798-54-6201

INSTITUT FRANÇAIS アンスティチュ・フランセ関西 JAPON - KANSAI
関西学院大学 KWANSEI GAKUIN UNIVERSITY
科研費 KAKENHI

主催：アンスティチュ・フランセ関西　共催：関西学院大学文学部フランス文学フランス語学専修、
科学研究費基盤 B「世界文学の時代におけるフィクションの役割に関する総合的研究」